

## 1-1 日本とその周辺の地震活動（2025 年 5 月～10 月）

### Seismic Activity in and around Japan (May – October 2025)

気象庁

Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺で M5.0 以上の地震は 84 回、M6.0 以上の地震は 9 回発生した。このうち日本国内での最大は、2025 年 6 月 14 日に千島列島で発生した M6.2 の地震（最大震度 1）であった。

日本周辺を含めた最大は、2025 年 7 月 30 日にロシア、カムチャッカ半島東方沖の深さ 35km で発生した M8.8 の地震（日本国内で観測した最大の揺れは震度 2）であった。

2025 年 5 月～10 月の M5.0 以上の地震の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

#### (1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2025 年 5 月 31 日 17 時 37 分に釧路沖の深さ 20km で M6.0 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震は、陸のプレート内で発生した。発震機構（CMT 解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。同日 17 時 39 分にほぼ同じ場所で M5.0 の地震が発生している。

2025 年 6 月 2 日 03 時 51 分に十勝沖の深さ 27km で M6.1 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。6 月 3 日 22 時 18 分にほぼ同じ場所で M5.2 の地震（最大震度 3）が発生している。

2025 年 6 月 19 日 08 時 08 分に根室半島南東沖の深さ 25km で M6.0 の地震（最大震度 4）が発生した。また、6 月 22 日 06 時 23 分にほぼ同じ場所の深さ 24km で M6.0 の地震（最大震度 3）が発生した。これらの地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。発震機構（CMT 解）はいずれも北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2025 年 10 月 25 日 01 時 40 分に根室半島南東沖の深さ 40km で M5.8 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。また、2025 年 10 月 22 日 18 時 17 分に釧路沖の深さ 43km で M5.1 の地震（最大震度 4）が発生した。これらの地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。発震機構はいずれも北西南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

#### (2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った地震活動はなかった。

#### (3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」及び「令和 6 年能登半島地震」の頁参照）

石川県能登地方では 2020 年 12 月から地震活動が活発になり、活動当初は比較的規模の小さな地震が継続する中、2022 年 6 月に M5.4（最大震度 6 弱）、2023 年 5 月に M6.5（最大震度 6 強）、2024 年 1 月に M7.6（最大震度 7）、2024 年 6 月に M6.0（最大震度 5 強）、2024 年 11 月に M6.6（最大震度 5 弱）の地震が発生した。M7.6 の地震後の活動域では、地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的には緩やかに減少してきているが、震度 1 以上を観測した地震が 5 月は 8 回、6 月は 7 回、7 月は 6 回、8 月は 13 回、9 月は 8 回、10 月は 6 回発生するなど、活動は継続している。期間中の

最大規模の地震は、9月8日08時24分に石川県能登地方の深さ13kmで発生したM4.5の地震（最大震度3）である。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った地震活動はなかった。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2025年6月21日05時頃からトカラ列島近海（小宝島付近）で地震活動が活発となり、7月2日にM5.6の地震（最大震度5弱）、3日にM5.5の地震（最大震度6弱）が発生するなど、6月21日から10月31日までに震度1以上を観測した地震が2383回発生した。これらの地震は、陸のプレート内で発生した。今回の地震活動域の周辺は、1995年12月、2000年10月、2021年12月など、過去にも活発な地震活動が継続したことがある地域であり、これらの地震活動では、活発な期間と落ち着いた期間を繰り返しながら、数か月程度以上継続したこともあった。今回の一連の地震活動は、1995年以降に発生した地震活動の中で、最も地震回数が多い。

2025年7月からトカラ列島近海（諏訪之瀬島付近）では時々まとまった地震活動が見られ、震度5弱を観測した9月17日以降、地震活動が活発となった。7月1日から10月31日までに震度1以上を観測した地震は、7月は33回、8月は34回、9月は116回、10月は14回で計199回発生している。このうち最大規模の地震は、9月17日22時00分に発生したM4.8の地震（最大震度4）である。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2025年5月5日19時53分に台湾付近の深さ14kmでM6.0の地震（日本国内で震度1以上を観測した地点なし）が発生した。発震機構（CMT解）は、北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。今回の地震の震央付近では、同日19時10分にもM5.4の地震が発生している。

2025年6月11日20時00分に台湾付近の深さ38kmでM6.0の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度2）が発生した。発震機構（CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(7) その他の地域の地震活動

2025年6月14日03時35分に千島列島でM6.2の地震（日本国内で観測した最大の揺れは震度1）が発生した。

2025年7月30日08時24分（日本時間、以下同じ）にロシア、カムチャッカ半島東方沖でMw8.8の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震により、岩手県の久慈港（国土交通省港湾局）で1.4mの津波を観測するなど、太平洋沿岸を中心に北海道から沖縄県までの広い範囲で津波を観測した。また、海外においても、ハワイのマウイ島で1.74mなどの津波を観測した。今回の地震の震央周辺では、M7.0以上の地震が時々発生しており、1952年

11月5日にはM9.0（USGSによる）の地震が発生し、北海道から九州の太平洋沿岸を中心に津波を観測した。

この地震は、太平洋プレートと北米プレートの境界で発生した。発震機構（気象庁によるCMT解）

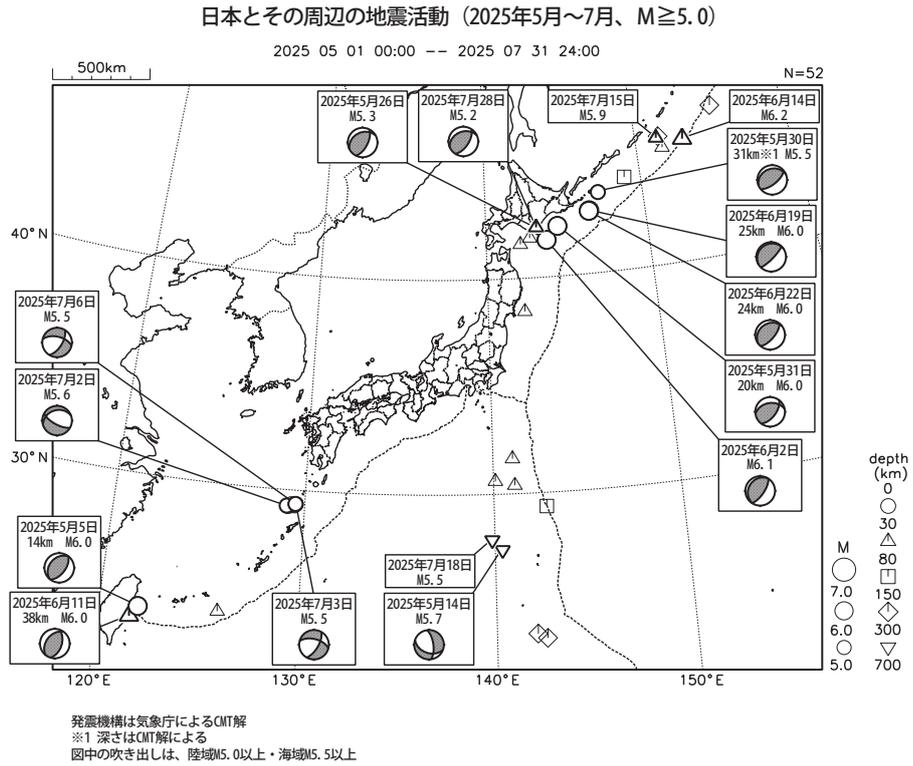
は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）のデータを用いて作成している。

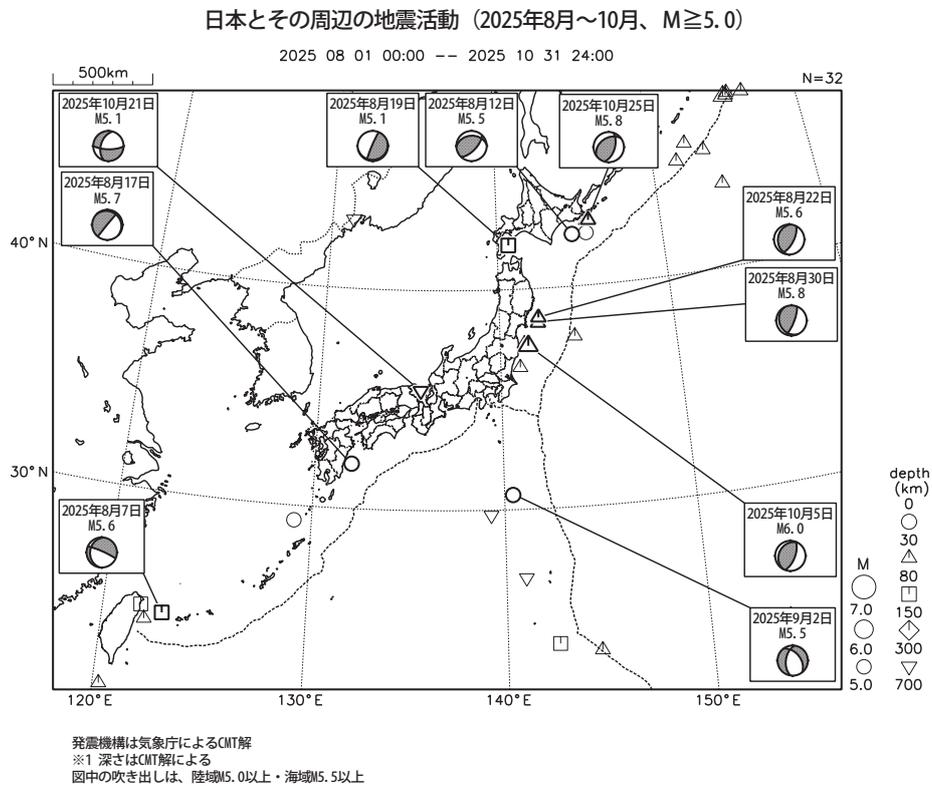
2016 年 4 月 1 日以降の震源では、M の小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。

2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、日本海溝海底地震津波観測網（S-net）や紀伊水道沖の地震・津波観測監視システム（DONET2）による海域観測網の観測データの活用、震源計算処理における海域速度構造の導入及び標高を考慮した震源決定等それまでのデータ処理方法との違いにより、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがある。

震源の深さを「CMT 解による」とした場合は、気象庁 CMT 解のセントロイドの深さを用いている。



第 1 図 (a) 日本とその周辺の地震活動 (2025 年 5 月 ~ 7 月, M  $\geq$  5.0, 深さ  $\leq$  700km)  
 Fig. 1(a) Seismic activity in and around Japan (May - July 2025, M  $\geq$  5.0, depth  $\leq$  700 km).



第 1 図 (b) つづき (2025 年 8 月 ~ 10 月, M  $\geq$  5.0, 深さ  $\leq$  700km)  
 Fig. 1(b) Continued (August - October 2025, M  $\geq$  5.0, depth  $\leq$  700 km).